

N-244

都市空間における魅力ある小スペースの空間構成

秋田大学 学生会員 佐藤 タ子
 アジア航測(株) 正会員 滝口 善博
 秋田大学 正会員 木村 一裕
 秋田大学 フェロー 清水浩志郎

1. はじめに

ポケットパークや公開空地など、近年都市空間における、快適でうるおいのある空間の整備が着実にすすめられている。このような空間の利用状況をみると、管理上の課題や、周辺との調和など、いくつかの理由からあまり利用されていない空間も見られている。本研究ではポケットパーク等小スペースの好ましさにおいて、空間構成の特徴と役割について考察することを目的としている。

2. 研究の概要

研究のフローを図-1に示している。本研究では、研究の目的に沿って、まずはじめに、空間の評価における空間構成の重要性を明らかにする。ついで、空間構成要素に着目した空間の類型化を行うとともに、これらの要因が、空間の好きさいや、利用希望に与える影響を明らかにする。なお、それらの空間がもたらすイメージについては、改めて分析する予定である。

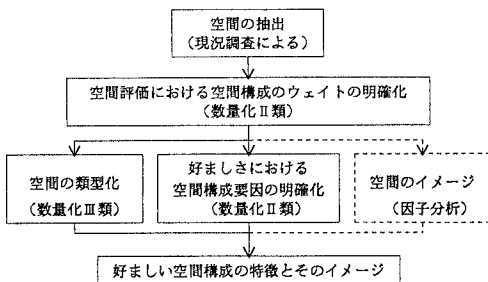


図-1 本研究のフロー

ポケットパーク等の都市の小スペースの抽出においては、東北地方の69の市町に依頼し、表-1に示すように、利用状況や空間構成などの現況調査を行った。抽出された空間は合計55にのぼった。サンプリングした空間については、写真を用いたアンケート調査を行った。被験者は秋田大学の学生31名である。アンケートの質問項目を表-2に示す。

3. 空間評価における空間構成のウェイト

空間評価における空間構成のウェイトを明らかにす

表-1 現況調査質問項目

(1) ポケットパークの名前、所在地	(2) 配置図
(3) 周辺状況	(4) 関連施設の有無
(5) 印象(ゆとり、静か、にぎやか...)	(6) 利用状況
(7) 利用目的	(8) 利用者層
	(9) 利用形態

表-2 質問項目

(1) 周辺との調和	(2) 空間の統一性
(3) 空間要素の質感	(4) 空間構成に対する評価
(5) 広さや奥行き感	
(a) 好き嫌い	(b) 利用者としての評価
(c) 風景としての評価	

るため、空間の評価要因として、周辺との調和、空間の統一性、質感、空間の構成、広さや奥行きの5つを取りあげ、好き嫌い、利用希望、風景としての良し悪しを、それぞれ外的基準として数値化Ⅱ類による分析を行った。評価対象とした空間は31の空間のうちランダムに抽出した16か所であり、それぞれの選好意識を60%基準として「すきな」「利用したい」「風景として良い」空間として分析を行った。その結果ほとんどの空間において「空間の統一性」と「空間の構成」のレンジが高い値を示した。表-3には各要因のレンジ平均の大きさを示している。

表-3 選好意識別に見た要因分析

外的基準	レンジ平均値				
	調和	統一性	質感	構成	広さや奥行き
1) 好き-きらい	1.082	1.844	1.463	1.790	1.473
2) 利用者としての評価	1.396	1.409	1.757	2.293	1.092
3) 風景としての評価	1.213	1.243	0.922	1.815	0.753

4. 空間の類型化

31空間を空間の様子を表-4の12アイテム24カテゴリーを用いて数値化Ⅲ類による分析を行い類型化した。その結果図-2に示すような空間に布置された。

ここで、囲いの高さ、広さなど空間要素のバランスに影響すると思われるアイテムに関して1次元のカテゴリー値が大きいことから1次元(1軸)を「空間のバランス」を表す軸と解釈した。また、2次元では高低差や屋根など空間の独立性に影響すると思われるアイテムに関してカテゴリー値が大きいことから2次元(2軸)を「独立性」を表す軸と解釈した(表-4)。

またサンプルのグルーピングを行うとⅠ群～Ⅳ群の4タイプに類型化される。表-5にその特徴を示す。このとき3で数量化Ⅱ類で分析した結果、「構成」レンジが大きく好まれない空間はⅡ群に多く見られた。

表-4 カテゴリースコア

アイテム	カテゴリー	1次元	2次元
1. 周辺の状況	商業地 非商業地	0.040	-1.018
2. 位置する場所	道路沿い 交差点角	-0.392	0.734
3. 囲い(高)	130～	-0.370	0.810
3. 囲い(中)	60～130	2.984	1.672
3. 囲い(低)	～60cm	-0.481	-0.956
4. 道路からの見え方	よく見える 見えにくい	-0.268	-0.642
5. 高低差	ある ない	-0.522	2.051
6. 屋根	ある ない	-1.165	1.375
7. オブジェ	ある ない	-0.190	0.478
8. 広さ(広)	150～	-1.216	1.152
8. 広さ(中)	150～100	1.732	-0.562
8. 広さ(狭)	～100㎡	-0.084	-1.088

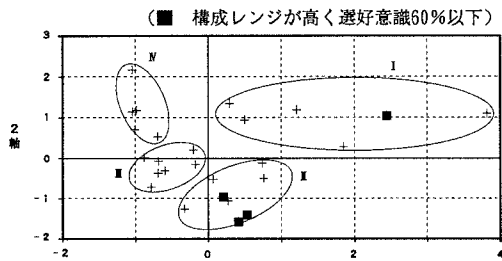


図-2 空間のサンプルプロット

表-5 各グループの特徴

グループ名	特 徴
Ⅰ群 市街地独立型	ポケットパークとして周りに独立しており、広さが中程度で市街地に位置する。
Ⅱ群 オープン型	周りに対してオープンな空間
Ⅲ群 施設のあるオープン型	周りに対してオープンな空間。だがⅡ群と比べると空間内に核や施設がある。
Ⅳ群 完全独立型	ポケットパークとして完全に周りに独立している

5. 空間構成と空間の嗜好性について

空間の評価には「空間構成」が大きく影響していることがわかった。ここでは、空間の好き嫌い、利用希望、風景としての良し悪し、について空間の類型化に用いた表-4の要因を用いて数量化Ⅱ類のよる分析を行った。表-6には、外的基準を「好き-きらい」としたときの結果を示している。レンジの大きい順に4. 道路からの見え方、3. 囲いの高さ、9. ベンチ位置となっており、空間の好ましきさにおいては「見え方、見られ方」が大きく影響していると思われる。

同様に利用したいか利用したくないかを外的基準としたとき、レンジの大きい順に7. オブジェ、9. ベンチ位置、8. 広さ、となっており、利用のしきさにおいては利用時の自分の居場所が影響していると思われる。また、風景の良さについてはレンジの大きい順に9. ベンチ位置、3. 囲いの高さ、6. 屋根、となっており、これは空間の存在感が影響していると思われる。

表-6 選好意識別に見た要因分析

アイ テ ム	カテゴリー	カテゴリースコア	レンジ	偏相関係数
1. 周辺の状況	1) 商業地 (19) 2) 非商業地 (12)	0.165 -0.260	0.424	0.162
2. 位置する場所	1) 道路沿い (11) 2) 交差点角 (20)	-0.571 0.314	0.885	0.295
3. 囲いの高さ	1) 130～ (4) 2) 60～130 (8) 3) ～60 cm (19)	-0.958 -0.912 0.586	1.544	0.356
4. 道路からの見え方	1) よく見える (24) 2) 見えにくい (7)	-0.391 1.340	1.731	0.406
5. 高低差	1) ある (7) 2) ない (24)	0.301 -0.088	0.389	0.113
6. 屋根	1) ある (8) 2) ない (23)	-0.570 0.198	0.768	0.188
7. オブジェ	1) ある (21) 2) ない (10)	-0.275 0.578	0.854	0.280
8. 広さ	1) 150～ (10) 2) 100～150 (14) 3) ～100 ㎡ (7)	0.120 -0.077 -0.017	0.198	0.061
9. ベンチ位置	1) 周辺 (20) 2) 手前 (2) 3) それ以外 (9)	-0.442 0.134 0.952	1.394	0.376
外的基準	1) 好き (10) 2) きらい (21)	-0.971 0.462	相関比	0.449

好き、きらいが分かれた空間の特徴をまとめると、好まれる空間は、道路から見えやすいが外とは区別されている空間であり、また空間内で利用者が自分の位置を選べる、といったものであった。一方好まれない空間は、目隠しとなるものがなく、外との明確な区別がないこと、ベンチ以外の施設がなく整然としていること、空間内での利用者の位置が限定されてしまうといった空間であった。したがって、空間の好ましきさや利用したさには空間の独立性や利用者との関わりやすさの自由度が必要であると思われる。空間構成以外では、緑の多い空間が好まれた。

6. おわりに

本研究では、空間の評価において、空間構成に着目し、取りあげた空間を4つのグループに分類することができた。その結果、好まれる空間はポケットパークとして、独立しているグループ、好まれない空間は周りとの明確な区別がなく、施設が少ないグループに属する傾向があることがわかった。好ましい、好ましくない「空間構成」に影響を与えている要因は「見え方や見られ方」、「利用者と空間との親和性」とも解釈できる。今後は高齢者など広い世代について、分析したいと考えている。